

開催地名：宮城県木城町	
開催日時	令和4年11月27日（日） 13：30 ～ 15：30
開催場所	木城町総合交流センター
語り部	山縣 嘉恵 （宮城県東松島市）
参加者	木城町役場職員・木城町消防団・地域住民・関係機関 約50名
開催経緯	<p>当町の町民は、台風を中心として風水害による被害を毎年のように受けているため、水害への危機意識は高く、今年度は、当町の中央を流れる一級河川の堤防決壊時浸水想定区域を柱とした総合防災マップを更新の上配布し、総合防災マップを活用した防災に関する説明会を開催するなど、防災意識の向上に取り組んでいる。一方、大規模な地震災害への対応は、直近でも1662年の外所地震であることから、地震に対する意識（知識）の向上が課題となっている。</p>
内容	<p>（１）はじめに</p> <p>私が住む東松島市は、桃生郡矢本町と鳴瀬町の合併（平成の大合併）によって2005年に発足した。西側に松島町が隣接し、仙台市と石巻市の間に位置しており、ブルーインパルスで有名な航空自衛隊松島基地が近くにある。</p> <p>2011年3月11日の東日本大震災では、津波の襲来で、死者1,000人以上が出て、市内全住宅の3分の2を超える約11,000棟が全半壊した。野蒜海岸では10.3メートルの津波が観測された。私が住む野蒜地区では、東側の石巻湾から押し寄せた津波が内陸2キロ弱を横断し、西側の松島湾に流れ込んだため、野蒜小学校の体育館で13人が、特別養護老人ホーム「不老園」の入所者56人が亡くなるなど、壊滅的被害を受けた。航空自衛隊松島基地も冠水し、多くの航空機が破損した。市内の指定避難所は106箇所及び、15,000人以上が避難所生活を送った。</p> <p>野蒜地区では、震災前に4,700人いた住民のうち、511人が犠牲となった。震災後の暮らしは選択の連続で、仮設住宅もしくは「みなし仮設」、他地区への移住等の選択を経て、野蒜ヶ丘防災集団移転団地が設置されたが、現在人口は2,700人ほどにまで減少している。なお、犠牲者の511人には、小学生24人、中学生8人、保育園児11人、幼稚園児1人が含まれている。（いずれも放課後の犠牲者）</p> <p>（２）東日本大震災時の状況</p> <p>地震発生時、私は自宅に、息子は小学校に、義母は自宅の離れに、夫は勤務先に行った。2003年にあった宮城県沖地震（宮城県北部沖地震）後、我が家では家具をL字型金具で固定したり、家具の上にモノを置かないことを徹底していたので、幸いにして家具の転倒はなかったが、経験したことのない大きな揺れが3分程度は続いた。津波が来ることは予想していたが、1960年のチリ地震津波同様、到達まで時間的余裕があると誤った認識を持っていたために、義母を置いてまずは息子を迎えに小学校に向かった。そして息子を引取って一旦地区センターに待たせておき、義母を自宅に迎えに行って、そして地区センターで3人一緒に合流してから避難所である野蒜小学校の体育館に向かった。</p>

野蒜地区には、西から東に東名運河が流れており、避難所の野蒜小学校は運河の北側、自宅は南側（海側）にあった。野蒜小学校までは野蒜海岸から直線距離で 1.2 キロ（自宅までは 600 メートル）あり、この運河の北側までは津波が来ないと思込んでいた。避難所に着いた私たちは、既に体育館は避難してきた住民でいっぱいだったため、中には入れずにいた。その時、海側から黒い津波が運河を越えて小学校に向かってるのが見えたため、校舎に向かって走った。私たちは津波から免れたが、体育館にいた避難者の一部に犠牲者が出てしまった。

(3) まとめ

この震災を経験しての思いは、何も知らなかったなという「反省」、自分たちは助かったが、できればみんなで助かりたかったという「後悔」、そして平時に備えられることが多いという「気付き」である。是非みなさんも避難行動についての以下の 7 つのポイントを家族で確認していただきたい。

- ・家の中の地震対策が有効
- ・避難場所は一つだけでなく複数把握
- ・災害が起きたら、待たせない、待たない、戻らないことが重要
- ・避難場所は災害により使えないところもあることを知っておく
- ・地域のひとと日頃からのあいさつが大切（顔の見える関係性の構築）
- ・車での避難も想定した訓練も必要
- ・学校と地域の連携した訓練やマニュアルの確認・共有も必要

今を生きる私たちが未来のためにできることは、伝承していくことであり、伝承から学び、行動を起こすことである。命を大切にすることは、防災に取り組むことであり、人を大切にすることであり、人づくり・街づくりをすることである。従って、防災は街づくりであるとも言えると思う。



開催地より

東日本大震災を経験された語り部から、津波の怖さや避難所生活についての具体的なお話を聞くことができ、地震に対する防災意識の向上や自助・共助の大切さについて認識できた。今後の防災活動に活かしていきたいと思う。